



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)

## 講演会 報告書

「避難指示解除後の檜葉町か  
ら語り部をお迎えして」

2016年6月25日(土)開催

かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)

ホームページ <http://kfop.jimdo.com/>

代表メール [info.kfop@gmail.com](mailto:info.kfop@gmail.com)

2016年7月15日発行 不許複製・禁無断転載

## 1. はじめに

かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop) では、福島の現状を伝える事業の一環として、総会開催に合わせて講演会を企画、開催しました。今回、テーマとして、2015年9月に避難指示が解除された檜葉町に帰還された語り部の方をお招きして現地の状況をお聞きするとともに、講師と直接対話できる時間も設けました。

普段から現地でのボランティア活動にご参加いただいている会員の方々に、より深く現地の方の言葉に耳を傾けていただくことを目的としていましたが、kfopの催しに今回初めてご参加いただいた方も多く、貴重なご意見を伺うことができました。

## 2. 開催概要

### (1) 日時・式次第

日時：2016年5月25日（土）14:30～16:00（14:00 受付開始）

タイトル：講演会「避難指示解除後の檜葉町から語り部をお迎えして」

会場：鶴見公会堂 第1・第2会議室（神奈川県横浜市鶴見区豊岡町2-1 フーガI）

定員：60名（参加費無料）

講師：高原カネ子さん（一般社団法人ならはみらい所属 ならはふるさと案内人）

主催：[かながわ「福島応援」プロジェクト \(kfop\)](#)

後援：[檜葉町](#)

協力：[一般社団法人ならはみらい](#)、[NPO 法人かながわ避難者と共にあゆむ会](#)

#### 〔式次第〕

- |             |                                 |
|-------------|---------------------------------|
| 14:30～15:30 | 講演                              |
| 15:30～15:50 | 参加者からの質疑応答、感想                   |
| 15:50～16:00 | 参加者からの活動PR、GARDEN CAFE「地蔵庵」紹介映像 |

### (2) 参加者実績

33人（うちkfop会員21人、一般11人）



福島県

### (3) 講師紹介

高原カネ子さん（福島県双葉郡楡葉町に在住）は、震災以前から、ならば天神太鼓うしお会で太鼓指導、和布細工工房「ほのぼの」主宰など精力的に活動をされていました。原発事故後に神奈川県湘南台（藤沢市）など転々と避難されている間も、散り散りになったうしお会のメンバーを集めて各地のイベントで演奏を披露されていました。その後、いわき市の借り上げ住宅で和布細工工房を再開され、県内外で作品展示会などを開催されました。

2015年9月に楡葉町の避難指示が解除された後すぐに自宅に戻られ、町に戻った人や子どもが参加できるようにと工房と太鼓指導を再開されています。神奈川県内でのイベントでも作品展示や楡葉町のパネル展示などに協力されています。



## 3. 詳細

### (1) 講演内容

楡葉町に帰れるという見通しが立ったとき、「私は帰る、他の誰かが帰らなくても帰る」と決めた。そのためには福島県内にいないと片付けも何もできないと思い、いわき市に何度も通って借り上げ住宅（賃貸住宅）を探した。そこから楡葉町の自宅を片付けに帰ったとき、一度だけ「もうダメだ」と思ったことがある。それは家の周りが草ぼうぼうのジャングルになっているのを見たとき。でも環境省などの力を借りて片付けや草刈りを進めていった。楡葉に向かうとき、広野町に入ったあたりで「ふるさとに近づいた」とワクワクする気持ちになった。ふるさとに対する気持ちを我慢するほうが、私にはストレスになると思った。布団と炊飯器、夫の位牌だけを持って帰宅したとき、玄関で涙がこぼれた。5年間は忙しく、あっという間だった。しかし帰れない人のことを思うと重い気持ちになる。

避難当時のこと。3月11日の震災当日は、2日後に「ならば天神太鼓うしお会」の発表会を控えてリハーサルがあり、会場に和布細工工房「ほのぼの」の作品も展示していた。しかし震災が起き、

さらに原発事故で東京まで車で避難し、会場はずっとそのままになっていた。東京では叔父の家にお世話になり、その後ご縁があり神奈川県湘南台に1年避難していた。中学生だった孫がはじめを受け、カウンセリングを受けた。少し落ち着いてきたとき、避難が長くなるだろうから地域に溶け込もうと思い、社協でボランティアグループを紹介してもらった。手帳に予定を書き込めることがうれしかった。

ある日、太鼓の弟子（5歳）のお母さんから電話をもらい、「先生は嘘つきだ、いつ迎えに来てくれるの？」「発表会のために歌の練習をしたのに」と言っていると。電話口で檜葉の歌を歌ってもらい、涙が出た。自分の家族だけよければいいのではないと気づき、うしお会のメンバーの所在を探した。やがて発表会を東京の麴町で開催できることになった。それを聞いた人から、衣装や費用の面で協力の申し出がたくさんあった。デジタル化された映像を見た人からいろいろ声が掛かった。

いわき市に帰ることになったとき、和布細工工房を再開してほしいという声があり、借り上げ住宅に入居して1週間後には再開した。借り上げ住宅に構えた工房の他に、仮設住宅でも教えた。檜葉町のキャラクター「ゆず太郎」のマスコットを販売用にと教えたら、すごい数ができたので、「いや～こんなにたくさんあるから、もういいよ」と言ったら、「作品作りを止められない、他にすることがないから」と言われた。いわき市では作品展を3回開催した。作品数は1,000点、来場者は5,000人にもなった。作品展のために男性陣も協力してくれるようになった。埼玉県の能護寺に吊し雛を展示していただいたご縁で、工房のメンバーで1泊で訪問した。夜の宴会では「今日は避難のことは忘れよう」と話し、爆発したようなはっちゃけぶりだった。

現在は檜葉町の自宅でも月3～4回教室を開き、生徒は仮設住宅から通っている。趣味は生きる力になる。檜葉町でも展示会を開き、2週間で1,001人が来場した。その中には「檜葉は帰れるからいいなあ」という声もあった。

檜葉町の現状。町民の8割はいわき市に避難中で、帰還したのは4月1日現在で503人。町ではモックアップセンターの誘致やインフラ整備など、町民が生活するための整備を進めている。原発事故はなかったことにはならない。元どおりには戻らないことを念頭に置いて暮らすことが必要。

避難生活を通じて感じた3つのこと。

- ・それまでどう生きてきたのかが問われる。
- ・誰も1人では生きていけない。人を大切にする思いが育たなければいけない。
- ・あまり支援が多すぎても自立できない。「ありがとう」を言うばかりでなく、「ありがとう」と言われる側になりたい。支援の受け方も考えなければならない。



## (2) 質疑応答・感想

- ・ 地元でボランティア活動をしているところでみんなの思いがバラバラでもめてしまうことが多く、お話を伺っていて、皆さん趣味を持たれている中で、「自分のために、と振り返ること」についてお話をされていたことが身に染みしました。ありがとうございました。

Q 今はひとりでお住まいですか？

A 檜葉に戻ってひとりで住んでいましたが、5月から息子が帰ってきました。自宅に「ガーデンカフェ地蔵庵」を開きました。大変リッチな緑茶をご提供しております。野菜を育てても売れないかもしれないので、花を植えています。藍を植えています。

Q 福島は風景がすごく素敵です。趣味でスケッチをしているのですが、檜葉町で素敵なスポットはありますか？ここからいくと宿が必要ですが、どんなところがありますか？

A 温泉宿（天神岬）も復活しています。まだ復旧が不十分なところも多いですが、素敵な景観がございます。

- ・ 郵便局に勤めており、小学校の125周年記念イベントの一環で福島の方に「忘れてませんよ」という手紙を書こうという企画をしています。現地に住まれていた方、戻っていらっしゃる方ということで言葉にするのはとても難しく、新聞記事なども見ていると涙が出てきてしまうのですが、小学生に七夕頃に願いを込めて手紙を書いてもらう企画にしています。より頑張っていこうと思いました。

A 麴町でのとき（ならば天神太鼓の発表会）は、励ます曲を作って小学生が歌ってくれた。父兄の中には福島の人、福島から持ってきた太鼓と接するなどとんでもない、という方もいらっしゃいました。ぜひ忘れないでください。今年から販売も含めたお米の作付けも始まりました。真実を伝えることが私しょくすることだと思っていますので、伝えるために来ました。どんな形でもやっぱり現地を見ないと分かっていただけない。ひとりがひとりに言ってもらっただけ

でいい。だから来ていただき見ていただきたい。

- Q 岩手県の陸前高田から町田に避難してきているのですが、高原さんのパワーに驚いています。震災以前はどのような活動をされていたのですか？
- A うしお会と和布細工工房は震災前からやっていました。職業は県の職員、役所の職員でした。現在 67 歳ですので、こう突っ走るのは 70 歳までと決めています。いつまでも私がやっていたら後輩が育たないので、いま育てる活動をしています。
- Q 湘南台に避難されたときにお孫さんが嫌な思いをされたと言いましたが、そういうことは結構あったのでしょうか？
- A ありました。仮設の小学校を早く設けなければという動きも、そこから出ました。
- Q 若い世代の方々は戻ることに對してどのように考えられているのかお聞きしたいです。
- A 放射能が大丈夫だと思うか思わないか、がまずあると思います。子どものことや、避難先で仕事を見つけたが檜葉に戻ったら仕事がないなど、いろいろな事情があります。帰らない、帰れないと言っている人が無理に帰る必要はない、やっとなんか思えるようになった。「帰らない人にはそこで頑張る。檜葉でイベントがあるときに、よければ来ればいい」と自分で考えを変えられるようになってから、ずいぶん楽になりました。檜葉を恋しくなるとき、人生につまづいたとき、きっとふるさとが役に立つことがあるはず、私はそのために頑張っています。
- ・ 今日はお話ありがとうございました。テレビで入る情報しか私たちにはないのですが、現地に家はあっても明かりはつかない、草がぼうぼうで人がいない、という光景を見て、それがトラウマのようになっていきます。被災者の方はそこから抜け出せない毎日を送られているのかと想像しながら、高原さんのように前を向いていらっしゃる方もいると救われた気になりました。
- Q 福島第二原発が再稼働することになったらどう思われますか？そのことをお子さん、お孫さんにどのように伝えていきたいと思いませんか？
- A 第二については個人としてお答えしますが、再稼働はありえないと思っています。現在でも老朽化しているのに、さらに老朽化する段階で再稼働をするということは、とんでもないことだと思っています。さきほど帰る帰らないの話もありましたが、若者が帰らないから仕事を作らなければ、という方向で再稼働するようだと、また元に戻ってしまう。もしそんなことがあれば個人としては反対します。※ちょっと過激なので、案内人として言った言葉だとは思わないでください
- Q 活動していく中で社会に対する怒りとか、怒りがわいてくるのではないかと思ったのですが。
- A ひとことで言うと人を信じています。飲み会やるのに太鼓たたいて、というような話がありますが、よく解釈するようにしています。活動の趣旨を理解しない発言などが出てきたら、それでもその人の生きがいにはなっているのだな、と思うようにしています。自分の許容範囲で受け入れられるところ、理解できるところを見るように努めています。国や東電を信じなかったらこの檜葉町では生きていけない。とにかく頑張ってくださいと信じるようになりました。あまりにも信じられなかったことが多かったせいなのか分かりませんが、今はそれで落ち着いています。私の年齢になってそのような心境になるのかもしれないよ。

### (3) 参加者アンケート集計結果

アンケート回収数：20

1. 今回の講演会の情報をどこで知りましたか？  
kfopからのメール (8)、kfop ホームページ (4)、友人・知人からの紹介 (4)、  
Facebook や Twitter での紹介 (3)、その他 (ネット検索) (1)
  
2. 今回参加した理由は？ (いくつでも)  
福島や被災地に関心があるから (20)、講演の内容に関心があるから (13)、  
日程や会場がよかったから (6)、主催団体 (kfop) に関心があるから (5)
  
3. 今回の講演の日程や会場はいかがでしたか？  
よかった (18)、普通 (1)、よくなかった (0)、無回答 (1)  
(コメント欄)
  - ・駅前が便利でした。(40代 男性)
  - ・駅前ですぐ分かる場所だったのでよかった。(60代 男性)
  
4. 今回の講演のテーマや進行はいかがでしたか？  
よかった (17)、普通 (1)、よくなかった (0)、無回答 (2)  
(コメント欄)
  - ・現状の福島を知ることができてよかった (60代 女性)
  - ・声がよく聞き取れませんでした → 残念でした (60代 女性)
  - ・現地の方の体験談を5年経った今聞けるのはよかったです。(40代 男性)
  - ・スクリーンに檜葉町の地図とか、活動の内容を映してもらえばよかったのでは。(60代 男性)
  
5. 今回の講演についてご感想・ご意見など、自由にお書きください。
  - ・思いを寄せてはいますが、何もできません。JA を通じて野菜などを購入して福島産を使っています。(60代 女性)
  - ・私も隣の県 (新潟) ですのでいつまでも応援していきたいです。(60代 女性)
  - ・福島の実情を聞かせていただいたこと、また支援を受けすぎると元氣になれなかったこと、自分たちが他からありがとうと言われることの大切さなど、とてもよく理解できました。ありがとうございました。(50代 男性)
  - ・高原さんの筋道立った分かりやすいお話でとても聞きやすかったですし、あっという間の1時間でした。被災という観点を越えた人の生き方について勉強させていただきました。ありがとうございました。
  - ・高原さんのパワフルな活動に元氣づけられた。(50代 男性)
  - ・ものの見方が広がりました。「自分がまず一歩」。過度の支援が、同じように普段の人との関わり方を考えさせられました。(60代 男性)
  - ・参加してよかったです。現地の方の現実的な意見をやっと聞くことができました。(福島か

ら譲っていただいた我が家の犬が、5年経ってようやく病気が完治しました。)(40代 女性)

- ・被災者として対面すると直ちに溝が生まれてしまいがちですが、1人の(活動的な)高齢者に接するだけと思えば共通点が多くて、いくらでも共感的になれます。(70代 男性)
- ・最後近くの高原さんの「信じている」というお言葉に救われる思いがしました。私は、辛い思いは皆が抱いていると思います。「自分だけが」という思いはしたくない。そういう思いの中で自分のできることをしたい。(70代 男性)
- ・高原さんのお話が分かりやすくよかった。(50代 女性)
- ・勇気がわいてくるようなお話でした。怒りや悲しみを受け止めて前向くカネ子さんの力強さにこちらが励まされました。(30代 女性)
- ・避難解除となった町の実情を知ることが大変有意義であった。(40代 男性)
- ・とても勉強になりました。そして元気を頂きました。ありがとうございました。(20代 女性)
- ・ご自身と深く向き合って生きていらっしゃるのだなあ…と感じ、今日お話ができて本当によかったと思いました。(40代 女性)

6. 今後の講演会の企画に向けて、どのような方のお話を聞いてみたいですか？

- ・難しいと思いますが、(いつもボランティア活動されている)東電の作業員の方。(40代 男性)
- ・同じような地元の方のお話を聞きたい。(50代 男性)
- ・福島の方。現地の方の言葉は重いですね。(60代 男性)
- ・相模原や津久井でも講演してください。(40代 女性)
- ・避難生活中(現地、現地以外の場所)、避難解除後の生活について話を聞く場を作っていたきたい。(40代 男性)

7. あなたご自身についてお答えください。

性別	男性(10)、女性(10)
年代	20代(1)、30代(1)、40代(4)、50代(7)、60代(5)、70代以上(2)
職業	会社員(7)、自営業(3)、パート/アルバイト(1)、家事専業(3)、定年後フリー(3)、その他(2)、無回答(1)
kfopの催しへの参加回数	今回が初めて(8)、2~3回(6)、4~5回(2)、6~9回(2)、10回以上(2)

以上

(報告書作成：kfop 広報担当 東尚子)



## 4. 資料

### (1) 広報用チラシ

#### 講演会

# 避難指示解除後の 檜葉町から 語り部をお迎えして

2016年6月25日（土）  
14:30～16:00  
鶴見公会堂  
第1・第2会議室

kfopでは現地でお手伝いをするためのボランティアバスを月1回運行していますが、会員全体を見れば当事者の方から直接お話を聞く機会がまだまだ少ないのが現状です。今回の講演会では、避難指示解除から半年がたった檜葉町から語り部をお招きし、現地の状況をお聞きして「自分にできること」を考えるきっかけになればと願っています。また、お話の終了後に感想や意見を共有するための時間を設けます。

講演会はどなたでもご参加いただけます。会場の定員がございますので事前のお申し込みをお願いいたします。

#### 【開催概要】

日時： 2016年6月25日（土）14:30～16:00  
14:00より受付開始  
会場： 鶴見公会堂 第1・第2会議室  
神奈川県横浜市鶴見区豊岡町2-1 フーガ I  
・JR京浜東北線「鶴見駅」西口から徒歩1分  
・京浜急行線「京急鶴見駅」西口から徒歩5分  
定員： 60名（参加費無料、全席自由）  
講師： 高原カネ子さん  
一般社団法人ならはみらい所属  
「ならはふるさと案内人」

注：鶴見公会堂の入口は6階ですのでエレベーターで6階までお越しください。6階ホール前の階段上がったところ（7階）で14時から受付を開始します。

#### 【申し込み方法】

ホームページのフォームを入力して送信していただくか、メールで必要事項をお送りください。複数の方を代表して申し込まれる場合は、ご参加人数をお知らせください。

●フォームでの申し込み  
<http://goo.gl/AKqbRT>

●電子メールでの申し込み  
[info.kfop@gmail.com](mailto:info.kfop@gmail.com)



申し込みページ

メールの場合は件名を「6/25講演会申し込み」とし、お名前、ご参加人数、ご連絡先メールアドレスをお知らせください。受付状況について返信を差し上げる場合がございますので、上記アドレスからのメールを受信できるように設定をお願いいたします。

#### 【講師ご紹介】

高原カネ子さん（福島県双葉郡檜葉町に在住）は、震災以前から、ならば天神太鼓うしお会で太鼓指導、和布細工工房「ほのぼの」主宰など精力的に活動をされています。原発事故後に神奈川県湘南台（藤沢市）など転々と避難されている間も、散り散りに避難されたうしお会のメンバーを集めて各地のイベントで太鼓の披露をされていました。その後、いわき市の借り上げ住宅で和布細工工房を再開され、県内外で作品展示会などを開催されました。

2015年9月に檜葉町の避難指示が解除された後すぐに自宅に戻られ、町に戻った人や子どもが参加できるようにと工房と太鼓指導を再開されています。神奈川県内でのイベントでも作品展示や檜葉町のパネル展示などに協力されています。

今回、避難指示解除後に帰町されてからの様子や課題、県外にいる人に伝えたいこととお話いただく予定です。



主催：かながわ「福島応援」プロジェクト（kfop） ホームページ <http://kfop.jimdo.com/>  
後援：檜葉町  
協力：一般社団法人ならはみらい  
NPO法人かながわ避難者と共にあゆむ会（申請中）

2016.5.18発行

## (2) 参加者アンケート用紙

## kfop講演会（2016年6月25日）に関するアンケート

本アンケートは、講師の方へのフィードバック、kfopの活動報告、今後の企画での参考のために実施します。ご協力をお願いいたします。  
 なお、回答は統計として処理し、文章は個人を特定できない形に変更させていただく場合があります。  
 ≪後日メール送付でも受け付けます。宛先: info.kfop@gmail.com 件名: 【アンケート】でお送りください≫

## 1. 今回の講演会の情報をどこで知りましたか？

- a. kfop ホームページ b. kfop からのメール c. 助けあいジャパン／みんなのアクション  
 d. ふくしま連携復興センターのメーリングリスト e. ふくしま結ネット f. 神奈川県 HP  
 g. Facebook や Twitter での紹介 h. 友人・知人からの紹介 i. その他 ( )

## 2. 今回の参加した理由は？（いくつでも）

- a. 福島や被災地に関心があるから  
 b. 講演の内容に関心があるから  
 c. 主催団体 (kfop) に関心があるから  
 d. 日程や会場がよかったから  
 e. その他 (具体的に: )

## 3. 今回の講演の日程や会場はいかがでしたか？

- a. よかった b. 普通 c. よくなかった  
 (具体的に指摘があれば遠慮なくご記入ください: )

## 4. 今回の講演のテーマや進行はいかがでしたか？

- a. よかった b. 普通 c. よくなかった  
 (具体的に指摘があれば遠慮なくご記入ください: )

## 5. 今回の講演についてご感想・ご意見など、自由にお書きください。

( )

## 6. 今後の講演会の企画に向けて、どのような方のお話を聞いてみたいですか？

( )

## 7. あなたご自身についてお答えください。(あてはまるものに○をつけてください)

性別	男性 ・ 女性
年代	20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代 ・ 70代以上
職業	会社員・自営業・パート/アルバイト・家事専業・定年後フリー・その他
kfop の催しへの参加回数	今回が初めて ・ 2～3回 ・ 4～5回 ・ 6～9回 ・ 10回以上